

令和 6 年 9 月 12 日

各位

甲府信用金庫

甲府信用金庫「DX 戦略」の策定について

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当金庫では、中期経営計画「Build Frontier 2027」において、「DX/デジタル戦略」を重要戦略として掲げており、DX 推進の方針を明確にし、スピード感を持った取組みとするため、今般、「DX 戦略」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

甲府信用金庫 DX戦略

2024年9月



1. DX戦略のビジョン

デジタル技術を活用して、自らの生産性を向上させるとともに、お客さまの多様なニーズに対応した多面的なチャネルにより最適なサービスの提供や情報発信ができる体制を構築し、地域社会の繁栄に貢献する。

DX重点戦略

I 非対面チャネルの拡充

お客さまの利便性を追求したサービスの提供を行う

II 業務プロセスの改革

抜本的に業務プロセスを見直し、生産性向上を図る

III デジタル人財の育成

組織全体のスキル向上を図り、お客さまの課題解決に貢献



お客さま満足の上昇

中期経営計画

「Build Frontier 2027」

「変革」と「共創」で生産性の限界を超え、持続的な成長を展望する

現状の課題

I 消費者行動の多様化・複雑化

スマホ普及による情報取得手段の変化
コロナ禍以降における生活様式の変化

II ビジネス変化スピードの加速

ネットバンクやフィンテック等の台頭
キャッシュレス決済の進展

III DX人財の不足

デジタル社会への苦手意識や抵抗感
DX化に対するITリテラシー不足



甲府信用金庫

戦略Ⅰ

非対面チャネルの拡充

お客さまの利便性を追求したサービスの提供を行う

- ❖ アプリ経由の取引メニュー拡大によるお客さまの利便性の向上
- ❖ ホームページやアプリの刷新（見やすい・読みやすい・クリックしやすい）
- ❖ ソーシャル広告によるプロモーションやデジタルマーケティングに基づくアプローチ
- ❖ SNSによる情報発信を行い若年層に向けた当金庫認知度の向上

多様化するニーズを踏まえた中で、これまでの当金庫の強みであるFace to Faceによる対面取引に加え、お客さまが「いつでも」「どこでも」「便利」に当金庫をご利用いただける非対面チャネルを拡充し、お客さまの利便性を向上させるとともに新たなプロモーション活動を展開する。

- ❖ 決裁業務や各種申請のシステム化による業務効率化およびペーパーレス推進
- ❖ データプラットフォームの再構築によるデータ利活用の効率化
- ❖ 渉外活動や窓口業務におけるデジタル活用の推進
- ❖ アプリ経由の取引拡大を踏まえた体制の整備

システムを活用した決裁・申請業務の電子化・ペーパーレス化や、渉外活動や窓口業務でのデジタル活用のほか、データプラットフォームを再構築し、データの利活用を効率化する取り組みなど、業務プロセスの改革推進を通じて生産性の向上を図る。

戦略Ⅲ

デジタル人財の育成

組織全体のスキル向上を図り、お客さまの課題解決に貢献

❖ 国家試験であるITパスポート資格の奨励

❖ オンライン教育環境によるD X関連講座の受講

❖ デジタル施策推進への幅広い職員の参画

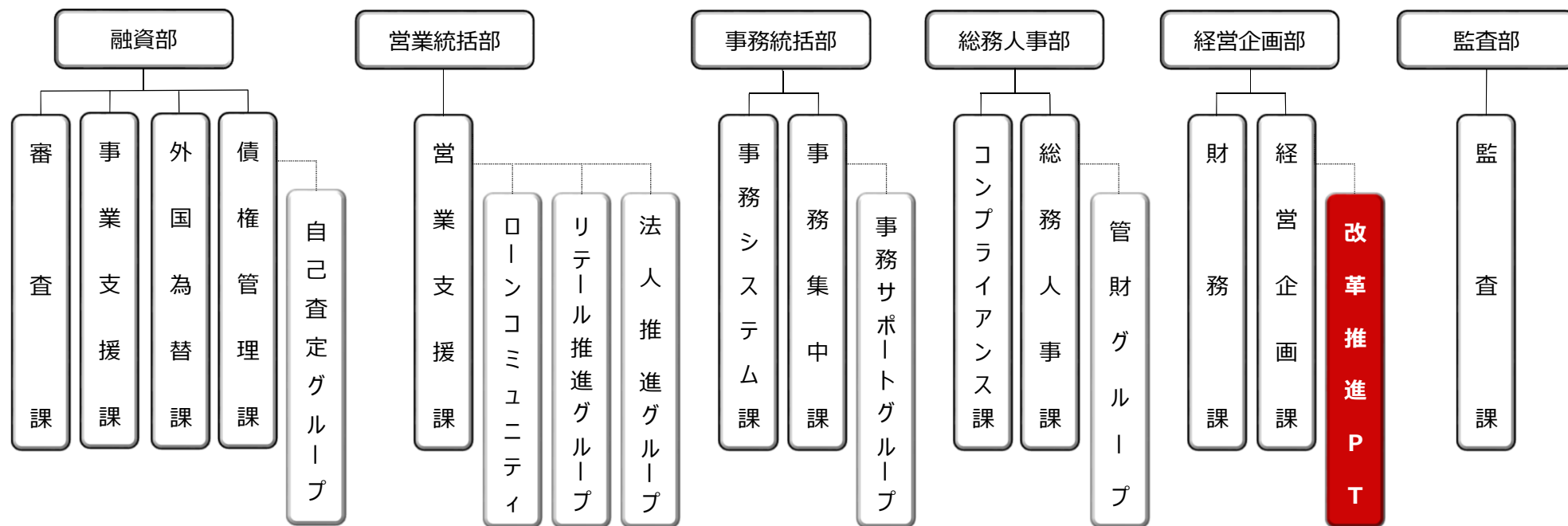
❖ データドリブンな組織文化・風土の醸成

※データドリブン…データの分析をもとに意思決定を行うこと

D X関連資格の取得推奨や研修等を通じて職員のスキル向上を図り、組織全体のリテラシーの底上げやデジタルを活用する意識を醸成するほか、システムインフラを支える人財育成に取り組む。

2. DX推進体制

令和6年4月1日より、組織横断的なDX推進の実効性向上を図るべく、経営企画部の経営企画課内に「改革推進プロジェクトチーム」を設置し、DXに精通した担当者を配置しました。



3. KPI(重要業績評価指標)について

総合的な指標

・DX推進指標 (平均以上)

経済産業省が公開した企業が自社のDX推進に関する現状の課題を自己診断できるツール。

35項目の設問に回答して点数化することで、自社のDX進捗状況を他社平均と比較することができる。

取組みの達成度合いを継続的に自己評価することにより、取組みの経年変化を把握し、DXの実現をめざします。

I 非対面チャネルの拡充

- ・ ホームページアクセス数
- ・ アプリ登録者数

II 業務プロセスの改革

- ・ 紙使用量・コピー使用量の削減割合
- ・ 業務効率化による事務処理時間の削減

III デジタル人財の育成

- ・ ITパスポート取得者数
- ・ e-ラーニング受講者数